

シチズン振動体温計：わき専用予測式（30秒）+実測式

CTEB720VA：振動体温計+アタッチメント

CTEB718V：振動体温計



- ご使用前に本書を必ずお読みください。
- 本書は保証書を兼ねています。紛失しないよう大切に保管してください。
- ご使用中は必ず本書をお手元においてください。

! この表示の欄は人が傷害を負ったり物的損害が想定される内容ですので、ご注意ください。

安全上のお願ひ

ご使用前に、必ずお読みください。

危険	人が死亡または重傷を負うことがあり、かつその切迫の度合いが高い危険が想定される場合
警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合
注意	人が傷害を負ったり、物的損害*の発生する可能性が想定される場合

*物的損害とは、家屋、家財および家畜、ペットにかかわる拡大損害を示します。

- !** **強制** 必ず実行していただく「強制」内容です。
- !** **禁止** してはいけない「禁止」内容です。

危険

- !** 電池はお子様の手の届くところに置かないでください。
→誤飲のおそれがあります。
- !** 電池を飲み込んだ場合には、化学やけど、粘膜の貫通など、死に至ることがあり、直ちに取っ払う必要があるため、すぐに医師の指示に従ってください。

警告

- !** 検温結果の自己判断、および治療は危険です。必ず医師の指導に従ってください。
→自己判断は、病気の悪化につながるおそれがあります。
- !** お子様だけで使わせしないでください。
→事故や故障の原因になります。
- !** 測温部（先端）をかまないでください。
→事故や故障の原因になります。
- !** 測温部（先端）で目を突かないようにしてください。
→けがなどの原因になります。
- !** 電池、電池カバーなどお子様が飲み込まないように充分注意してください。誤って電池、電池カバーなどを飲み込んでしまった場合、あるいは飲み込んだおそれがある場合は、医師に連絡し、指示を受けてください。
→けがなどの原因になります。
- !** 電池の液が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流して、医師の治療を受けてください。
→けがなどの原因になります。

注意

- !** 体温計を修理、改造、分解しないでください。
→事故や故障の原因になります。
- !** 測温部（先端）を持って振ったりしないでください。
→事故や故障の原因になります。
- !** 人の体温測定以外には使用しないでください。
→故障の原因になります。
- !** 携帯電話などの近くで使用したり、強い静電気や電磁波、磁石などに近づけたりしないでください。
→誤作動をおこすおそれがあります。
- !** 高温や直射日光の当たるところ、湿気の多いところ、ほこりの多いところなどの保管は避けてください。
→事故や故障の原因になります。
- !** 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
→故障の原因となります。
- !** 電池の+の向きを間違えないようにしてください。
→漏液、発熱、破裂などおこし、本体が破損する原因になります。

保証規定

次のような場合には保証期間内でも有料修理になります。

- ・誤ったご使用またはお取り扱いによる故障または損傷。
 - ・保管上の不備によるもの、およびご使用者の責に帰すと認められる故障または損傷。
 - ・火災、地震、水害その他の天災地変や、異常電圧、指定以外の電源、衝撃などによる故障または損傷。
 - ・保証書のご提示が無い場合。
 - ・保証書のお買い上げ日、販売店名などの記載に不備がある場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - ・ご使用後の外装面のキズ、破損、外装部品、付属品、消耗品などの交換。
- ※お買い上げの販売店にご持参頂く場合の諸費用や弊社にご送付いただく場合の送料などは、お客様の負担となります。
- ・保証書の再発行は致しませんので大切に保管してください。
 - ・本保証書は日本国内においてのみ有効です。
- This warranty is valid only in Japan.

本製品の特長

- 約 30 秒で測れる予測+実測式体温計
- 音だけでなく、振動で検温完了をお知らせ
- わきにはさみやすくズレにくい専用アタッチメント「びたッチメント」対応（CTEB720VA には「びたッチメント」が付属しています。CTEB718V は「びたッチメント」は別売りです。）
- 本体は防水・抗菌仕様（「お手入れ上の注意」を参照してください。）
- 大きな文字で見やすい液晶画面
- 暗いところでも測定結果が見えるバックライト機能つき

“健康予約”とは……

健康づくりには、日々のカラダの状態を常に把握しておくことが大切です。

“健康予約”は、健やかでやすらかな生活のために、まず「はかる」ことで毎日の健康管理をサポート。「はかる」ことから始めて、未来の健康を予約しましょう。

本製品の仕様

販売名	シチズン振動体温計
型式	CTEB720VA、CTEB718V
種類	予測式 一般用 防曇形
分類	内部電源機器・BF形装着部
検温部位	わき下
定格および電源	DC 3.0 V --- (---: 直流)、CR2025 タイプ相当 1 個
消費電力	7 mW
電池寿命	予測：約 3000 回 実測：約 1500 回
体温表示	数字 3 桁+℃、表示単位 0.1℃
最大許容誤差	± 0.1℃（恒温水槽で実測測定した場合）
測温範囲	32.0～42.0℃
質量	約 25.5 g（電池含む）アタッチメント装着時 約 35 g
寸法	約 31.5 mm（幅）× 126.5 mm（長さ）× 15 mm（厚さ） アタッチメント装着時 約 35 mm（幅）× 128 mm（長さ）× 18 mm（厚さ）
防水性	IPX7、JIS T 1140：2014による（防曇形）
付加機能	メモリー機能、電源自動 OFF、バックライト
使用環境	周囲温度：10～40℃ 相対湿度：30～85% RH
保管条件	周囲温度：-20～60℃ 相対湿度：95% RH 以下
付属品	収納ケース、モニター用電池（内蔵）、取扱説明書（保証書付）／ EMC 技術資料、医療機器添付文書、アタッチメント（CTEB720VA のみ）

※本製品、および取り出した古い電池を廃棄する場合は、お住まいの自治体のルールにもとづいて正しく処理してください。

※取扱説明書に記載した以外の使用方法および製造業者以外によっておこなわれた修理、改造、再調整などについて、当社はその責任を負いません。

※本製品は EMC 規格 IEC 60601-1-2：2014 に適合しています。

EMC 適合

※本製品は JIS T 1140：2014 に適合しています。

※本製品は改良のため、予告なしに仕様変更することがあります。

※IPX7 とは、IEC 60529 によって規定された水に対する保護を示しており、1 m の深さに 30 分間浸漬させても有害な影響を生じる量の水が製品内に侵入されないように保護されています。

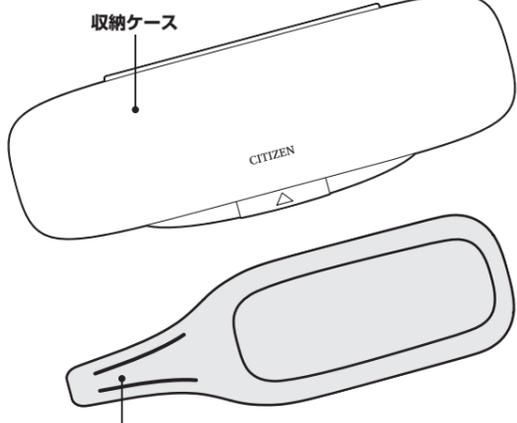
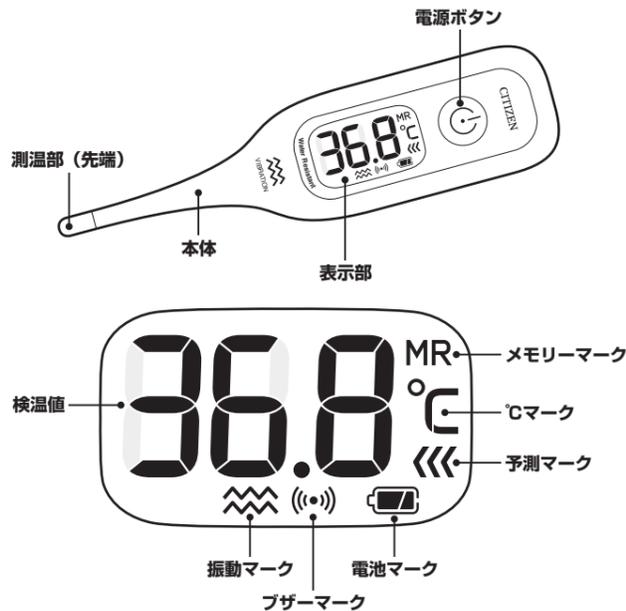
保証書

本書は、お客様が取扱説明書に従って正しく使用したにもかかわらず、万一故障した場合、本保証規定に従ってお買い上げ後 1 年間は無料修理をおこなうことをお約束するものです。お客様に記入いただきました本保証書は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

商品コード	CTEB720VA CTEB718V
お客様お名前	様 TEL - -
ご住所 〒	
※以下につきましては、必ず販売店にてご記入、ご捺印をお願いいたします。	
お買い上げ日	年 月 日
販売店名および住所	
保証期間	お買い上げ日より 1 年間
製造販売元	シチズン・システムズ株式会社 〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12

検査証：本製品は弊社の定められた検査に合格しております。

各部のなまえ



専用アタッチメント「びたッチメント」型番：AT-CT201

※以下「びたッチメント」と表記（CTEB720VA には「びたッチメント」が付属しています。CTEB718V は「びたッチメント」は別売りです。お求めはお買い上げの販売店、または弊社お客様相談室までお問い合わせください。）

「びたッチメント」装着方法

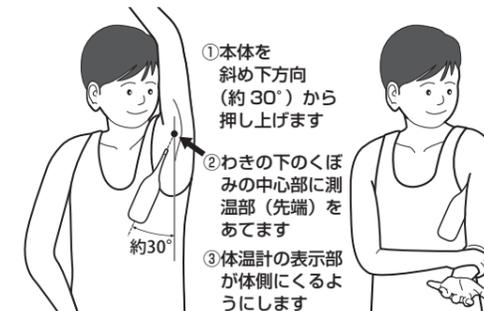
体温計が測定中にすり落ちてしまったり、はさみづらい際には「びたッチメント」が便利です。よりわきにフィットし、ズレにくく安定した体温測定ができます。

- ①「びたッチメント」に、本体の測温部（先端）をスライドして入れます。
- ②本体上部に、「びたッチメント」をかぶせて装着します。
- ③体温計本体の裏側にある音孔の位置を合わせます。



（CTEB718V は「びたッチメント」は別売りです。）

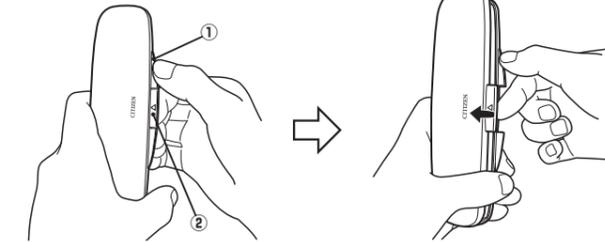
体温計の正しいはさみかた



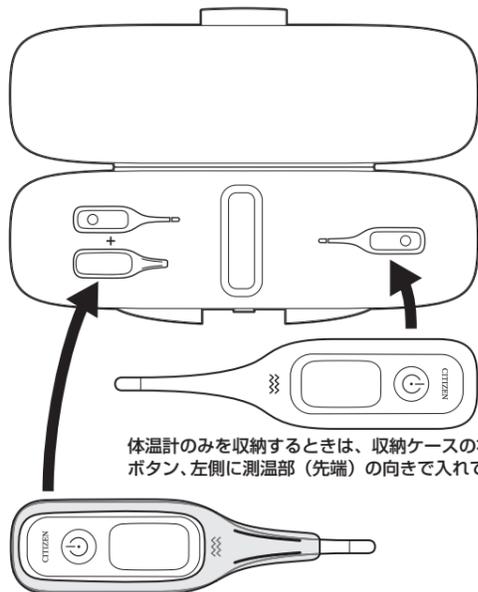
- 「びたッチメント」装着時も同じようにはさんでください。

収納ケースの開けかた

CITIZEN の文字がある面を上にして、①の突起部に右手の親指を上からかけ、②の突起部（△マークの部分）に右手の人差し指を下からかけ、ひねって収納ケースのフタを開けてください。



体温計の収納方法



体温計のみを収納するときは、収納ケースの右側に電源ボタン、左側に測温部（先端）の向きで入れてください。

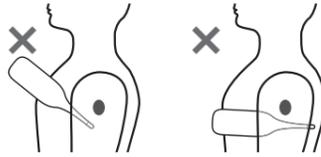
体温計に「びたッチメント」を装着した状態で収納するときは、収納ケースの右側に測温部（先端）、左側に電源ボタンの向きで入れてください。

体温ワンポイントメモ

- いつもより検温値が高いとき
3～5 分程度の実測検温値と比べていませんか？
予測検温値はわきを閉じてからわきの下が十分に温まる 10 分後の温度（平衡温）を予測して表示します。
- 人の体温
大人の平熱は 36.8℃程度で、幼児は大人より高め体温と言われている。また、1 日の中での体温の変動も大きくなっています。
ふだんの検温で平熱の範囲を確認しておきましょう。
- 検温はわきの下の正しい位置で
検温値はわきのはさむ位置で異なりますので、常にわきの下の正しい位置で測定してください。（「体温計の正しいはさみかた」を参照してください。）
- 平熱を知っておきましょう
平熱は個人差もあるのでふだんから検温を心がけ、元気なときの体温を知っておきましょう。

こんなときは正しく測れません

- 入浴・運動・飲食直後など
入浴、運動、食事、お茶などのあとは体温が上がっています。約 30 分間は検温を避けてください。
- 汗をかいた状態
汗でぬれていると実際よりも低い体温を示すことがあります。汗をかいたままの検温は避けてください。測る前に、わきの下の汗を乾いたタオルなどで軽く拭き取ってください。
- 起床直後
起床直後に動いた場合は、比較的激しく体温が上昇しますので、検温は避けてください。起床直後に検温する場合は、動き出す前の安静時が 30 分以上経ってから測定してください。
- 検温中に動く
検温中に動くくと正しく測定できません。検温中は安静にしてください。

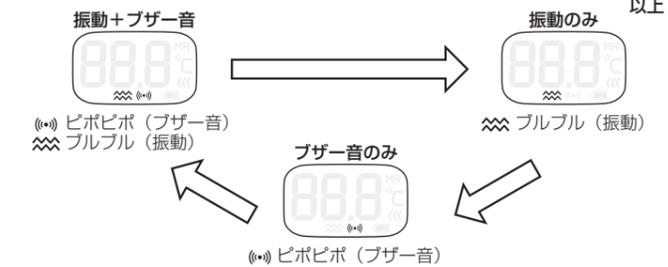


お知らせモードの選びかた

検温完了のお知らせを、「振動＋ブザー音」、「振動のみ」、「ブザー音のみ」から選ぶことができます。

1 電源が切れている状態で、電源ボタンを2秒以上押し続けます。

電源ボタンを押し続けると、4秒ごとにお知らせモードが切り替わります。



2 お好みのお知らせモードのときに電源ボタンを離します。

電源ボタンを離したときのモードに設定されます。
※初期および電池交換後は、「振動＋ブザー音」のモードの設定になっています。
※お知らせモードは最大3回切り替わります。3回切り替わると自動的に体温を測るモードになりますので、設定がお済みでない場合は再度①から操作し直してください。

体温の測りかた

1 電源を入れます。

体温計を収納ケースから取り出し、電源ボタンを押します。バックライトが約4秒間点灯します。



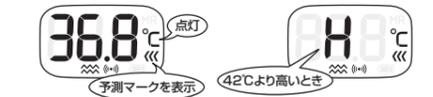
表示部が全点灯します。
※このとき表示する●は電池交換のお知らせではありません。

前回の測定値 (メモリー) と、現在のお知らせモードを表示します。
※前回値が実測検温の場合は予測マーク「[[」は表示しません。

※シが表示しないときは、測温部 (先端) が32℃以上になっている可能性があります。その場合は、測温部 (先端) を水で冷やしてから、再度測定してください。

2 わきの下にはさみ体温を測定します。

わきの下のくぼみの中心部に体温計の測温部 (先端) があたるように、斜め下方向 (30°) からはさんでわきをしっかりと閉じます。予測検温中は、予測マーク「[[」を表示します。約30秒で予測検温が完了します。℃が点滅から点灯へ変わり、「[[」ビポビポ (ブザー音) か、「[[」ブルブル (振動)、またはその両方の合図で取り出します。



実測検温するとき

予測検温のあと、体温計を取り出さずに検温を続けます。検温開始から約3分後に実測表示に切り替わります。約10分後に「[[」ビポビポ (ブザー音) か、「[[」ブルブル (振動)、またはその両方の合図で取り出します。

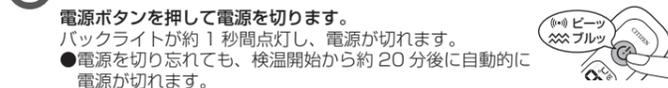
※続けて検温する場合は、電源を切り1分以上放置してからご使用ください。
※冬季など体温計が冷えている場合、体温計を周囲温度になじませてから測定してください。
※低温環境で測定した場合、検温完了までの時間が長くなる場合があります。

3 電源を切り、本体を収納ケースに入れます。

電源ボタンを押して電源を切ります。バックライトが約1秒間点灯し、電源が切れます。

●電源を切り忘れても、検温開始から約20分後に自動的に電源が切れます。

※「体温計の収納方法」を参照してください。



測定ができないときは

故障と疑われる場合には、まず下記の項目について点検をお願いします。それでも正常に作動しないときは、保証規定をお読みの上、修理・サービスをお申しつけください。

こんなとき	点検するところ / 状態	直しかた
電源ボタンを押しても何も表示しない	電池が正しく入っていますか? 電池が消耗していませんか?	「電池交換の方法と注意」を参照して、正しく入れなおしてください。 新しい電池に交換してください。
Er.1	・測温部 (先端) がわきの下から外れていませんか? ・測定前に体温計が低温環境に保管されていませんか? ・測定中の周囲温度が低く、10℃未満ではありませんでしたか?	しばらく時間を置いて、使用環境 (10～40℃) にて本取扱説明書の操作方法に従い、再度測定してください。
Er.2	・測定前の周囲温度が高くありませんか? ・連続して測定していませんか? ・℃が点滅する前にわきの下にはさんでいませんか?	測温部 (先端) を水で冷やしてから、本取扱説明書の操作方法に従い、再度測定してください。
Er.3	センサー回路の断線などで計測回路に異常があった場合	弊社お客様相談室にご相談ください。

電池交換の方法と注意

電池交換の手順

- コインなどを電池カバーの溝に入れ、「◀ OPEN」の方向 (反時計回り) に電池カバー側の○印と本体側の○印が合うまで (約130°) まわしてください。
- 電池カバーが上がってきますので、手を取り外してください。
- 古い電池を取り外してください。
- 電池の⊕側を上にして新しい電池をセットしてください。
- 電池カバー側の○印と本体側の○印を合わせて、カバーを上から押さえながらコインなどで「CLOSE ▶」の方向 (時計回り) に元の位置までまわしてください。

電池交換の注意

- 電池および電池カバーなどはお客様などがけがをしたり、飲み込まないように十分注意してください。
- シが点滅したら、お早めに交換してください。シが点灯すると、検温ができなくなります。
- 電池はCR2025です。なお、付属の電池はモニター用 (機能確認用) です。電池寿命が短い場合があります。
- 使用済みの電池は、お住まいの自治体で決められた廃棄方法に従って、正しく処分してください。
- 長期間使用しない場合、電池は取り外して保管してください。

お手入れ上の注意

- 測温部 (先端) を消毒する場合には、消毒用アルコールを含ませたガーゼなどで軽く拭いてください。また、測温部 (先端) を長時間アルコールに浸漬したり、熱湯 (50℃を超えるお湯) で消毒しないでください。故障の原因になります。なお、表示部およびその周囲は、消毒用アルコールを含ませたガーゼなどで拭かないでください。表示部の曇りの原因になります。
- ご使用後は必ず清潔にして (水分をよく拭き取って) 付属の収納ケースに保管してください。
- 汚れがひどい場合は、中性洗剤を含ませた布をよく絞ってから拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩、クワルヘキシングルコン酸塩、次亜塩素酸ナトリウムなどは絶対に使わないでください。変色、変質、変形や故障の原因になります。
- イソプロパノールやエタノールに長時間 (およそ30分以上) 浸漬させた場合、体温計が変形する可能性があります。
- 超音波洗浄はしないでください。故障の原因になります。
- 水洗いをおこなう場合は、洗面器などに貯めた水に体温計を浸してから、汚れを拭き取るようにしてください。
- 本品は、IPX7およびJIS T 1140:2014に準じた防浸規格に適合しておりますが、本規格では流水などの高い水圧や、長時間の浸漬については保証されておりません。
- 「びたタッチメント」は本体から取り外して、中性洗剤で洗いきれいな水ですすぎ、水分をよく拭き取ってください。

故障を発見した場合はただちに使用を中止し、分解せず、お買い上げの販売店または弊社お客様相談室にお問合せください。

シチズン・システムズ株式会社 0120-88-6295

お客様相談室 通話料金は無料です。
E-mail: support@systems.citizen.co.jp http://www.citizen-systems.co.jp

CITIZEN はシチズン時計株式会社の登録商標です。

医療機器認証番号 301ADBZX00010000

EMC 技術資料

シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V は、医用電気機器の安全使用のために要求されている EMC (電磁両立性) 規格、IEC 60601-1-2:2014に適合している装置です。EMC規格は、医用電気機器を安全に使用するため、機器から発生するノイズが他の機器に影響を及ぼしたり、他の機器 (携帯電話等) が発生する電磁波から受ける影響を、一定のレベル以下に抑えるよう規定した規格です。IEC 60601-1-2:2014 (5.2.2項) において、機器が安全に機能するための EMC 環境に関する詳細な情報を使用者に提供することが求められているため、技術的な説明を以下に記載します。(詳細は、IEC 60601-1-2:2014をご参照ください。)

本製品をお使いいただく際には、付属の添付文書および取扱説明書をよく読んでお使いください。

EMC (電磁両立性) とは

EMC (電磁両立性) とは、次の二つの事項を満たす能力のことです。
・周囲の他の電子機器に、許容できない障害を与えるようなノイズを出さない。(エミッション)
・周囲の他の電子機器から出されるノイズ等、使用される場所の電磁環境に耐え、機器の機能を正常に発揮できる。(イミュニティ)

EMC (電磁両立性) にかかわる技術的な説明

医用電気機器は、EMC に関して特別な注意を必要とし、次に記載する EMC の情報に従って使用する必要があります。

警告	内容
●	本機器は電磁両立性 (EMC) に関して、特別な注意が必要であり、EMC 技術資料に記載された EMC 情報にもとづいて使用しなければならない。
●	携帯および移動無線周波 (RF) 通信機器により本機器は影響を受けることがあるので、30cm 以上離して使用することが望ましい。
●	本機器は、他の機器に密着させたり、重ねた状態で使用しないこと。
●	アクセサリ/オプション品は、弊社の指定品を使用すること。指定品以外のアクセサリ/オプション品を使用すると電磁放射波 (エミッション) が増加したり妨害に対するイミュニティが低下したりすることがある。

表 1 - ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁エミッション

ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁エミッション	
シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V は次に指定した電磁環境内での使用を意図している。シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V の顧客又は使用者は、下記の環境で使用されることを確認すること。	
エミッション試験	電磁環境 - ガイダンス
RFエミッション CISPR11	グループ1
RFエミッション CISPR11	クラスB
高周波エミッション IEC 61000-3-2	非適用
電圧変動/フリッカエミッション IEC 61000-3-3	非適用

表 2 - ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ

ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ			
シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V は次に指定した電磁環境内での使用を意図している。シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V の顧客又は使用者は、このような環境内で使用されることを確認すること。			
イミュニティ試験	IEC 60601 試験レベル	適合レベル	電磁環境 - ガイダンス
静電気放電 (ESD) IEC 61000-4-2	±8 kV 接触 ±15 kV 気中	±8 kV 接触 ±15 kV 気中	床は木材、コンクリート又はセラミックタイルであること。床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は最低30%であること。
電氣的ファーストランジエント/バースト IEC 61000-4-4	±2 kV 電源ライン ±1 kV 入出力ライン	非適用	非適用
サージ IEC 61000-4-5	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-接地間	非適用	非適用
電源入力ラインでの電圧ディップ、短時間停電および電圧変動 IEC 61000-4-11	0% UT (0.5 サイクル) 0% UT (1 サイクル) 70% UT (25/30 サイクル) 0% UT (250/300 サイクル)	非適用	非適用
電源周波数 (50/60 Hz) 境界 IEC 61000-4-8	30 A/m	30 A/m	電力周波数境界は、典型的な商用又は病院環境内の典型的な場所でのレベルにあること。
備考	UT は、検査レベルを加える前の交流電源電圧である。		

表 3 - ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ

ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ			
シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V は次に指定した電磁環境内での使用を意図している。シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V の顧客又は使用者は、このような環境内で使用されることを確認すること。			
イミュニティ試験	IEC 60601 試験レベル	適合レベル	電磁環境 - ガイダンス
伝導 RF IEC61000-4-6	3 Vrms (150 kHz~80 kHz) 6 Vrms (150 kHz~80 MHz間のISM及びアマチュア無線帯域)	非適用	非適用
放射 RF IEC61000-4-3	10 V/m (80 MHz~2.7 GHz)	10 V/m	d=1.2√P d=2.3√P 80 MHz~800 MHz 800 MHz~2.7 GHz ここでPは、送信機製造業者によるワット (W) で表した送信機の最大出力電力定格であり、dはメートル (m) で表した推奨分離距離である。 電磁界の現地調査alによって決定する固定RF送信機からの電界強度は、各周波数範囲における適合レベルよりも低いこと。 次の記号が表示されている機器の近傍では、干渉が生じることがある。
備考1	80 MHzおよび800 MHzにおいては、高い周波数範囲を適用する。		
備考2	これらの指針はすべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収および反射は電磁波の伝搬に影響する。		
a	例えば無線 (携帯/コードレス) 電話および陸上移動無線の基地局、アマチュア無線、AM・FMラジオ放送およびTV放送のような固定送信機からの電界強度を、正確に理論的に予測することはできない。固定RF送信機による電磁環境を見積もるためには、電磁界の現地調査を考慮すること。シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V が使用される場所の正確な電磁界強度が、適用されるRF適合性が上記のレベルを超過する場合、正常動作を検証するためにシチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V を監視すること。異常な動作が発見される場合、追加の手段、例えば、シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V の向き又は場所を変えることが必要となることがある。		
b	周波数範囲150 kHz~80 MHzで、電磁界強度は3 V/m未満であることが望ましい。		

表 4 - 携帯形および移動形RF通信機器と機器又はシチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V との間の推奨分離距離

送信機の最大定格出力電力 (W)	150 kHz~80 MHz 3Vrms	150 kHz~80 MHz 6Vrms	80 MHz~800 MHz d=1.2√P	800 MHz~2.7 GHz d=2.3√P
0.01	非適用	非適用	0.12	0.23
0.1	非適用	非適用	0.38	0.73
1	非適用	非適用	1.2	2.3
10	非適用	非適用	3.8	7.3
100	非適用	非適用	12	23

上記以外の最大定格出力電力の送信機に関しては、メートル (m) で表した推奨分離距離dは、送信機の周波数に対応する方程式を用いて決定できる。ここでPは、送信機製造業者によるワット (W) で表した送信機の最大定格出力電力である。
備考1 80 MHzおよび800 MHzにおいては、高い周波数範囲を適用する。
備考2 これらの指針はすべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収および反射は電磁波の伝搬に影響する。

表 5 - ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ

ガイダンスおよび製造業者による宣言 - 電磁イミュニティ						
シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V は次に指定した電磁環境内での使用を意図している。シチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V の顧客又は使用者は、このような環境内で使用されることを確認すること。						
試験周波数 (MHz)	周波数帯域 ^{a)} (MHz)	サービス ^{a)}	変調 ^{b)}	最大電力 (W)	距離 (m)	試験レベル (V/m)
385	380-390	TETRA 400	パルス変調 ^{b)} 18Hz	1.8	0.3	27
450	430-470	GMRS 460 FRS 460	FM ^{b)} ±5kHz偏差 1kHz正弦波	2	0.3	28
710, 745, 780	704-787	LTE Band 13, 17	パルス変調 ^{b)} 21.7Hz	0.2	0.3	9
810, 870, 930	800-960	GSM 800/900 TETRA 800 IDEN 820 CDMA 850 LTE Band 5	パルス変調 ^{b)} 18Hz	2	0.3	28
1720, 1845, 1970	1700-1990	GSM 1800 CDMA 1900 GSM 1900 DECT LTE Band 1, 3, 4, 25 UMTS	パルス変調 ^{b)} 21.7Hz	2	0.3	28
2450	2400-2570	Bluetooth WLAN 802.11b/g/n RFID 2450 LTE Band 7	パルス変調 ^{b)} 21.7Hz	2	0.3	28
5240, 5500, 5785	5100-5800	WLAN 802.11a/n	パルス変調 ^{b)} 21.7Hz	0.2	0.3	9
備考	イミュニティ試験レベルを達成するために必要な場合には、送信アンテナとシチズン振動体温計 CTEB720VA・CTEB718V との距離を1mにしてよい。1mの試験距離はIEC61000-4-3で許容されている。					
a)	サービスによってはアップリンク周波数だけが含まれる。					
b)	搬送波は50%デュティサイクル矩形波信号を用いて変調しなければならない。					
c)	FM変調の代わりにして、18 Hzでの50%パルス変調を用いてもよい。これは、実際の変調を表すわけではないが、最悪状態と考えられるためである。					